

第1学年 国語科学習指導案

日 時 平成25年9月13日(金) 5校時
児 童 男子5名 女子2名 計7名
指導者 松川 紀子

- 1 単元名 みんなでよもう
教材名 くじらぐも (光村図書1年 下 ともだち)

【指導事項】

- ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること 読(1)ア
◎場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと 読(2)ウ

【関連する学習技能】

- ①正しくはっきりと音読できる。
②題名、登場人物、会話文、地の文、作者を指摘できる。
③絵や、人物の行動から人物像や場面を想像できる。

【言語活動】

- ◎他学級の友だちに、大型紙芝居「くじらぐも」を発表するという活動目標のもと、登場人物の子どもたちの行動や場面の様子に着目し、想像しながら読むこと

2 単元について

(1) 児童について

「おむすびころりん」では、いつ、どこで、だれが、どうしたといったあらすじをおさえながら、登場人物の行動から、場面の様子について想像しながら学習をした。また、場面の様子を思い浮かべることが出来るよう、語や文としてのまとまり、言葉のリズムに注意しながら繰り返し音読を行い、3次では、音読発表会をした。ひとまとまりの語や文として音読することは、苦手としている児童が多いが、「おむすびころりん すっとんとん」といった繰り返し出てくる文については、リズムを意識して音読することができた。「おおきなかぶ」では、題名、登場人物、会話文、地の文という用語を用いながら学習を進めた。指導者と共に、誰がどうしたという登場人物の行動を叙述から指摘し、動作化をして場面の様子について想像しながら劇に表現して読むことができた。

(2) 指導にあたって

1次では、登場人物、時、場所をとらえる。挿絵を手がかりに、場所が校庭から空、また校庭とうつりかわることを押さえたうえで、5場面に分ける。場面毎に登場人物の行動に着目して、動作化で物語を演じた「おおきなかぶ」の学習を振り返らせて、今度は、「大型紙芝居に挑戦しよう」という活動目標を提示する。大型紙芝居では場面に登場人物の行動を基に自分で新しく会話文を考えて、想像しながら読んでいくことを確認し、児童に活動の見通しを持たせる。そして、紙芝居は、他の学級の上級生に発表するという明確な意識をもって学習に取り組めるようにする。

2次では、場面毎に教材文を載せたワークシートに会話文を書き込む学習活動を行う。このワークシートが大型紙芝居の台本となり、2次の単位時間毎に作り上げていくことで児童に3次の言語活動、大型紙芝居の台本が完成していく実感を持たせられるようにしたい。文中にない会話文を想像するために、登場人物の行動や会話文、場面の様子に着目しながら読み、また紙芝居の絵に登場人物を入れていくことで、登場人物の行動に着目して読み、場面の移り変わりがわかると考える。そして、場面の中で会話を考える箇所を限定することで、児童同士が関わり合いながら学習に取り組めるようにしたい。大型紙芝居の発表会を行うというめあてに向かって、想像した会話文を含めた音読をグループで役割読みをして、ひとまとまりの語や文として読めるよう意識させたい。

3次では、2次で作ったワークシートをもとに、学級内で紙芝居の発表会を行い、互いによいところを発表しあう。そして、他の学級の人に聞いてもらい感想を聞くことで、表現をする楽しさを実感させたい。

3 単元の目標

◎登場人物の会話と行動を基に想像を広げ、会話文や登場人物の動きを考えることができる。読（1）ウ
○語のまとまりに気をつけて、音読することができる。読（2）ア

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
文章の楽しさに気付いたり、紙芝居で自分の考えを表現したりしようとしている。	紙芝居で演じるという目的をもって、登場人物の行動に気を付けて読み、場面の様子を想像している。	主語と述語との関係に注意して、文章を読んでいる。

5 単元の指導計画（全10時間 本時7時間目）

次	時間	主な学習活動	評価基準（☆評価の方法）
1 つか む	1	・音読をして、物語の大体の様子をつかむ。 ・最後に他学級の児童に紙芝居に見せるという見通しをもつ。	（関）単元の見通しをもち、学習内容を把握しようとしている。 ☆発言・観察
	2 3	・漢字や片仮名の読み方、書き方を知る。 ・「くじらぐも」の設定（時・場所・登場人物）をおさえ、5つの場面に分ける。	（読）時、場所、登場人物をとらえている。 ☆発言・観察
	2 とら え ・ ふ か め る	・一緒に体育をするくじらぐもを見た子ども達の会話文を想像する。	（読）くじらぐもの行動を見た子ども達の会話文を想像している。 ☆ワークシート
	5	・くじらぐもに飛び乗ろうとする子ども達の会話文を想像する。	（読）くじらぐもに飛び乗ろうとする子ども達の会話文を想像している。 ☆ワークシート
	6	・くじらぐもに応援されて、飛び乗ろうとする子ども達の会話文を想像する。	（読）くじらぐもに応援されて、飛び乗ろうとする子ども達の会話文を想像している。☆ワークシート
	7 本 時	・くじらぐもに乗って空を進む子ども達の会話文を想像する。	（読）くじらぐもに乗って空を進む子ども達の会話文を想像している。 ☆ワークシート
	8	・くじらぐもに手をふる子ども達の会話文を想像する。	（読）くじらぐもに手をふる子ども達の会話文を想像している。 ☆ワークシート
3 つ か う	9 10	・大型紙芝居の練習をし、発表会をする。	（関）想像を広げて物語を楽しもうとしている。 ☆観察
		*朝活動 他学級に大型紙芝居を発表する	

6 本時の指導

(1) 目標

くじらぐもに乗って空を進む子どもたちの様子を想像することができる。

(2) 具体的評価規準

A	B	C支援
友だちの考えた会話文からも子どもたちの様子を想像しようとしている。	空を進む子どもたちの様子を想像して、会話文を考えている。	挿絵や板書を手がかりに、見えたものを考えさせる。

(3) 本時の展開

過程	学習活動●主な発問	○期待する児童の反応	指導上の留意点
つかむ5分	1 前時の学習をふりかえり、本時のめあてを確認する。 子どもたちのかいわぶんをかながえよう。		<ul style="list-style-type: none"> ・前の場面で、校庭から空へと子どもたちのいる場所が変わったことをおさえる。 ・学習計画表から紙芝居台本作りの4場面目であることを確認する。 ・紙芝居発表にむけて、はっきり正しく音読をするという意識を持たせる。
深める35分	3 空の中をどちらの方へ進んでいったか、確認する。 ●子どもたちはくじらぐもと一緒にどちらの方へすすんでいきましたか。 ●海の方では、どんなものが見えますか。 ●村の方では、どんなものが見えますか。 ●町の方では、どんなものが見えますか。 4 子どもたちの会話文を想像する。 ●くじらぐもにのって子どもたちは、どんな会話をしているのでしょうか。会話文を想像して書きましょう。	○海のほうへ、 ○村のほうへ、 ○町のほうへ。 ○船 ○魚 ○泳いでいる人 ○田んぼ ○畑 ○ビニールハウス ○ビル ○デパート ○青い海がきれいだなあ。 ○田んぼが見えた。 ○ビルがたくさんあるなあ。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発言を板書して、くじらぐもに乗って空から見える世界の想像をより広げさせるようにする。 ・会話文を想像して書けない児童には、板書や挿絵を手がかりにして書くよう個別指導をする。
	5 会話文を発表する。 ・ペア学習 ・全体交流	(評価) B子ども達の様子を想像して、会話文を書いている。(ワークシート)	<ul style="list-style-type: none"> ・地の文、くじらぐも、子どもに分かれて交代で音読をする。子ども役は、自分が想像した会話文を発表する。
まとめる5分	5 本時の学習を振り返る。 ●会話文を考えることができましたか。	○会話文を考えて、4の場面の台本ができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の想像した会話文と友だちの想像した会話文について、振り返る。
		(評価) A友だちの考えた会話文からも子どもたちの様子を想像している。(発表)	

(4) 板書計画

<p>くじらぐも 子どもたち 挿絵</p>	<p>だいめい くじらぐも さくしや なががわ りえこ めあて 子どもたちのかいわぶんを かんがえよう。</p>	
<p>まちのほうへ。</p>	<p>むらのほうへ、</p>	<p>うみのほうへ、</p>